

三浦さんは私と同年配の方なのでしょうか？私も小学生の頃に自宅でラジオを二台並べてステレオにしてクラシックを聴いていた、同じ方法ですね。マーラーは私も大好きです。特に好きなのは交響曲5番(たぶん)あの澄み切った音楽！私にとって音楽は空気なので、曲目がわからないのです。ラフマニノフは実話を映画化した「SHIN」でますます凄い曲だと思いました。

松本にいらした頃、「鈴木メソード」のことが書かれていましたね。鈴木さんが長野市に初めてその「鈴木メソード」を広める時、私の叔父が一役買いました。叔父は長野日赤病院の小児科医だったのですが、後に開業医となりました。その時に鈴木さんとつながりができたのです。そのせいか私の従兄弟は、今でもヴァイオリンを教えています。当時の写真もあります。

音楽が宇宙の調和に由来するとか、科学や物理と関係があるなんて、面白い話ですね。嫌いな物理が少しは好きになったかもしれません。またピタゴラスが音律をまとめたなど興味深かったです。

絶対音感の能力があれば＝優れた音楽家ではないということは、そうでない多くの人たちに希望を与えますね。考えてみれば、きっと音楽は自然界に吹く風や小川のせせらぎ、雨の音や波の音などを表現していたら、それが音楽になったということが始まりなんでしょうね。そこに人の感情が入ってきて…？「音楽を聴いて楽しくなったり、その美しさに酔ったり、また悲しくなったりする感情を生み出すことが音楽の音楽たる所以である」と仰せのとおりだと思います。

今、練習している曲はドボルザークの「STABAT MATER」強いて言えば「悲しみの聖母」ですが、この曲は歌っているだけで、涙が出そうになります。是非お聴きください。

アルベルト・シュヴァイツァーは小学生の時、NHKの初めての海外取材番組の中で知りましたが、当時、博士の生き方に感銘を受けたことを思い出します。

成田咲花